

乳癌、スクリーニング、超音波検査、マンモグラフィ、異常所見、乳腺密度1

マンモグラフィによるスクリーニングでdense breast (実質性乳腺) が認められた女性に、さらに超音波検査を行うことによって乳癌の検知率は上昇したが、超音波検査1,000回あたり52.2例にバイオプシーが必要となった。超音波検査の併用は考慮されるべきであるが、dense breastをいくつかの乳癌のリスク因子の一つとして考え、スクリーニングに伴うリスクも考慮し、それぞれの女性の考えに沿って妥当な対応法を決定する必要がある。

Screening ultrasound as an adjunct to mammography in women with mammographically dense breasts

John R. Scheel, Janie M. Lee, Brian L. Sprague, Christoph I. Lee, Constance D. Lehman

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):9-17

【文献番号】 g09300 (婦人科腫瘍、家族性腫瘍、癌遺伝子、遺伝カウンセリング、予防的摘出手術、スクリーニング、乳癌)

子宮摘出術、子宮筋腫、子宮細切術、子宮筋腫核出術、悪性腫瘍、合併症、内臓損傷3

FDA は腹腔鏡下手術の際の電動式モルセレーターの使用を勧められないとする見解を発表した。電動式モルセレーターは1993年に初めて使用され骨盤腫瘍を細切する方法として有用と考えられた。しかし、電動式モルセレーターによって血管、小腸、大腸、膀胱、尿管、卵管、大網などの損傷例が報告されており、その発現率は0.02～0.007%と推定される。また、医原性腹膜子宮筋腫症は電動式モルセレーターを用いた手術で0.5～12%に発生したと報告されている。術前に悪性の検査も行われるが、潜在性の子宮の悪性腫瘍が1,332例に3例の割合で認められたと報告されている。肉腫が認められた場合は早期癌であってもその5年生存率は低く65.7%と報告されている。電動式モルセレーターを使用する場合には特別なバッグを用いて組織を散布させないような対応も必要である。

Power morcellators: a review of current practice and assessment of risk

Sangeeta Senapati, Frank F. Tu, Javier F. Magrina

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):18-23

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

薬剤表示、妊婦、胎児、新生児、安全性、産科麻酔5

製薬会社や立法者は現在の医薬品表示を改善し、臨床家にとって必要な指針を提供する必要がある。麻酔医は類似した薬剤を用いており、何百万人もの女性、胎児あるいは新生児が薬剤に被ばくしている。分娩の際に麻酔医によって使用される薬剤の大部分は適応外使用の薬剤となっている。医薬品表示に示された通りの方法に従った場合、医師は効果的な安全な麻酔を実施することができない。多くの麻酔に使用される薬剤は妊婦や授乳中の女性を対象とした安全性の検査を受けることなく市場に出されている。国によっては、propofolやfentanylは妊産婦には使用してはならないという警告が表示されている。現在の医薬品表示は患者にとってネガティブな影響を及ぼしている可能性がある。FDAは妊婦と授乳中の女性に対する医薬品表示の改正を試み、詳しく触れられるようになった。妊婦や授乳中の女性に対する薬剤の使用に関する記載も含まれるようになった。しかし、医薬品表示が変わったが妊婦や授乳中の女性における薬剤の使用に関する十分な情報は示されていない。

Drug labeling in the practice of obstetric anesthesia

Brendan Carvalho, Cynthia A. Wong

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):24-27

【文献番号】 o06500 (無痛分娩、産科麻酔、疼痛管理)

骨盤臓器脱、骨盤底筋、筋肉トレーニング、褥婦、初産婦、臨床的有用性8

初産婦の女性において、性器脱の予防に有用とされている骨盤底筋トレーニングを分娩後に試みたが有用性は認められなかった。骨盤底筋のトレーニングの有用性に関して、確かな結論を得るためにはさらに無作為対照試験を試みる必要がある。

Postpartum pelvic floor muscle training and pelvic organ prolapse-a randomized trial of primiparous women

Kari Bo, Gunvor Hilde, Jette Staer-Jensen, Franziska Siafarikas, Merete Kolberg Tennfjord, Marie Ellstrom Eng

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):38.e1-38.e7

【文献番号】 g05100 (性器脱、便失禁、尿失禁、骨盤臓器脱、合併症、リスク因子、処置)

クラミジア、淋菌、高齢、スクリーニング10

年齢の比較的高い女性においてはクラミジアトラコマチスや淋菌を認める割合は性感染症の発現頻度の高い集団の中においても低く、20%超の女性においては性感染陽性者の検知率に影響を与えることなくクラミジアトラコマチス/淋菌の検査を回避することができる。閉経後の女性、子宮摘出を受けた女性および40歳超の女性でSTIに被ばくしていない無症候性の女性においては、過剰なスクリーニングが行われている状況が明らかとなった。

Over-screening for chlamydia and gonorrhea among urban women age ≥25 years

Jaleesa A. Jackson, Tiffany S. McNair, Jenell S. Coleman

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):40.e1-40.e6

【文献番号】 g01300 (STD、クラミジア感染)

小児癌、生存者、妊娠、ライフスタイル、放射線被ばく、喫煙、リスク因子 12

小児癌の生存者において大部分のライフスタイルに関わる因子と心理的苦痛がネガティブな妊娠に関わる臨床結果の予測因子とはならない。流産のリスクは子宮に対する放射線被ばくが2.5Gy 超の喫煙者においては有意に上昇するという結果が得られた。

Lifestyle, distress, and pregnancy outcomes in the Childhood Cancer Survivor Study cohort
Prasad L. Gawade, Kevin C. Oeffinger, Charles A. Sklar, Daniel M. Green, Kevin R. Krull, Wassim Chemaitilly, Marilyn Stovall, Wendy Leisenring, Gregory T. Armstrong, Leslie L. Robison, Kirsten K. Ness
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):47.e1-47.e10

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

避妊、IUD、IUS、長期作動性可逆的避妊法、implant、満足度 13

長期作動性可逆的避妊法の種類に関わらず3 か月および6 か月を経た時点における満足度は極めて高いという結果が得られた。自己報告による出血や疼痛の状態は短期的な長期作動性可逆的避妊法の満足度と相関するという結果が得られた。

Association of short-term bleeding and cramping patterns with long-acting reversible contraceptive method satisfaction
Justin T. Diedrich, Sanyukta Desai, Qihong Zhao, Gina Secura, Tessa Madden, Jeffrey F. Peipert
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):50.e1-50.e8

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

AMH、IVF-ET、卵巣予備能、卵管切除術 14

卵管切除術はIVFを受けた女性においてAMHレベルの低下とFSHの上昇は相関するという結果が得られたが、一側卵管切除術あるいは両側卵管切除術を受けた女性においてAMHレベルは採卵数とは相関しなかった。このような結果は卵管切除術は卵巣予備能の低下と相関することを示唆するものである。

A retrospective analysis of the effect of salpingectomy on serum antiMullerian hormone level and ovarian reserve
Xu-ping Ye, Yue-zhou Yang, Xiao-xi Sun
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):53.e1-53.e10

【文献番号】 r02200 (低卵巣反応、卵巣予備能、加齢、予測因子、AMH)

子宮内膜癌、リンパ節転移、nomogram、評価法、信頼度 16

類子宮内膜子宮内膜癌患者におけるリンパ節転移を予測するnomogramの精度を外部評価で調べたところ、新しい独立したコホートにおいても有用であるという結果が得られた。これらの予測ツールを用いることによってリンパ節転移の個別的な予測が可能ではあるが、さらなるパラメーターを用いてカウンセリングに活用できる精度に高める必要がある。

External validation of nomograms designed to predict lymphatic dissemination in patients with early-stage endometrioid endometrial cancer: a multicenter study
Sofiane Bendifallah, Geoffroy Canlorbe, Emilie Raimond, Delphine Hudry, Charles Coutant, Olivier Graesslin, Cyril Touboul, Florence Hugué, Annie Cortez, Emile Darai, Marcos Ballester
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):56.e1-56.e7

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)

異常妊娠、妊娠第1三半期、妊娠スクリーニングテスト、感度、特異度 17

救急外来において市販されている検査キットが妊娠第1三半期の異常を検知あるいは除外する上で有用であるというを確認することはできなかった。

Sensitivity and specificity of a urinary screening test used in an emergency setting to detect abnormal first trimester pregnancies
Joao L.G. Teixeira, Paola Rabaioli, Ricardo F. Savaris
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):58.e1-58.e5

【文献番号】 o03900 (異常妊娠関連事項)

閉経女性、ペッサリー、帯下、炎症 19

閉経後の女性にペッサリーを使用することによって不愉快な帯下が発現するがその発現は早期に認められ炎症が関わっているものと考えられる。

The effect of pessaries on the vaginal microenvironment
Sarah Collins, Richard Beigi, Colleen Mellen, David O'Sullivan, Paul Tulikangas
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):60.e1-60.e6

【文献番号】 g01500 (膣炎、細菌性膣症、膣カンジダ症、萎縮性膣炎)

子宮頸癌スクリーニング、ガイドライン、準拠率、ケア提供者.....21

2012年の子宮頸癌のスクリーニングのガイドラインの準拠率は低く、ガイドラインに関する知識の欠如がその一つの要因となっていた。ケア提供者と患者の教育を図り、ガイドラインの準拠率を高める方法、たとえば電子記録オーダーシステムを用いる方法などについて考えてみる必要がある。

Adherence to the 2012 national cervical cancer screening guidelines: a pilot study

Deanna G.K. Teoh, Amity E. Marriott, Rachel Isaksson Vogel, Ryan T. Marriott, Charles W. Lais, Levi S. Downs, Shalini L. Kulasingam

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):62.e1-62.e9

【文献番号】g02800 (細胞診、コルポスコプ、スクリーニング、パピローマウイルス、LEEP、円錐切除、生検)

分娩陣痛、炎症性マーカー、インターロイキン、陣痛発来.....23

リスクの低い初産婦において入院時に分娩陣痛をみたものにおいては分娩陣痛をみる前のものと比較しいくつかの炎症性バイオマーカーの血中濃度は有意に高く、その上昇の速度も早かった。炎症性マーカーの進行的変化が分娩の予測精度を改善するか、または入院の適切なタイミングを決定する上で有用であるかという点に関してさらに研究が必要である。

Differences in inflammatory markers between nulliparous women admitted to hospitals in preactive vs active labor

Jeremy L. Neal, Jane M. Lamp, Nancy K. Lowe, Shannon L. Gillespie, Loraine T. Sinnott, Donna O. McCarthy

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):68.e1-68.e8

【文献番号】o12301 (産科関連事項)

トロホプラスト、ウイルス感染、防御作用、microRNA、条件培地.....24

ヒトの初代培養トロホプラストを培養した後に得られた条件培地は非トロホプラスト細胞におけるウイルス感染を減弱させる効果があることが明らかとなった。このような結果はトロホプラストが特異的な抗ウイルス作用を有していることを示唆するもので、治療にも利用できる可能性がある。

Human trophoblasts confer resistance to viruses implicated in perinatal infection

Avraham Bayer, Elizabeth Delorme-Axford, Christie Sleighter, Teryl K. Frey, Derek W. Trobaugh, William B. Klimstra, Lori A. Emert-Sedlak, Thomas E. Smithgall, Paul R. Kinchington, Stephen Vadia, Stephanie Seveau, Jon P. Boyle, Carolyn B. Coyne, Yoel Sadovsky

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):71.e1-71.e8

【文献番号】o01700 (妊娠、細菌性膣症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、GBS、HIV、感染症、MRSA)

糖尿病、経済的分析、妊娠合併症、費用対効果.....25

予防可能な糖尿病合併妊娠に関わる健康上および経済的負担は大きいが一様に妊娠成立前にケアを提供することによって糖尿病合併妊娠を予防することができ、妊娠成立前にケアを提供することに伴う費用を相殺することにもなる。

Preventable health and cost burden of adverse birth outcomes associated with pregestational diabetes in the United States

Cora Peterson, Scott D. Grosse, Rui Li, Andrea J. Sharma, Hilda Razzaghi, William H. Herman, Suzanne M. Gilboa

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):74.e1-74.e9

【文献番号】o03200 (糖尿病、診断、検査、妊婦管理)

破水、早産、意思決定モデル、PPROM.....26

来院時にPPROMの判定が出来ない患者や妊娠34～37週未満の例で従来から行われているCTDTで判定が難しい患者において、PAMG-1テストを採用することによって高い費用対効果が得られる。

Placental alpha-microglobulin-1 and combined traditional diagnostic test: a cost-benefit analysis

Nelson C. Echebiri, M. Maya McDoom, Jessica A. Pullen, Meaghan M. Aalto, Natasha N. Patel, Nora M. Doyle

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):77.e1-77.e10

【文献番号】o04100 (前期破水、早期破水、早産、羊水感染)

バイオマーカー、糖化フィブロンネクチン、即時検査、preeclampsia.....28

糖化フィブロンネクチン (glycosylated fibronectin, GlyFn) は標準的測定法を用いても、ポイント・オブ・ケア検査によっても preeclampsia をモニタリングする上で確かなバイオマーカーとなることから、いろいろな状況で活用することができる。

Maternal serum glycosylated fibronectin as a point-of-care biomarker for assessment of preeclampsia

Juha Rasanen, Matthew J. Quinn, Amber Laurie, Eric Bean, Charles T. Roberts, Srinivasa R. Nagalla, Michael G. Gravett

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):82.e1-82.e9

【文献番号】o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

preeclampsia、過体重、肥満、BMI、体脂肪率、リスク因子31

肥満女性において妊娠早期の体脂肪はpreeclampsiaの病態生理に関わる重要な因子であると考えられる。

Early-pregnancy percent body fat in relation to preeclampsia risk in obese women

Lindsay K. Sween, Andrew D. Althouse, James M. Roberts

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):84.e1-84.e7

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

胎児 fibronectin、早産、性交32

胎児 fibronectin の検査の48時間以内に性交を試みることによって腔分泌液中の胎児fibronectinのレベルは上昇した。無症候性の女性における自然早産のリスクを調べるための検査前の性交は偽陽性率を高めることになる。

Prediction of spontaneous preterm birth using quantitative fetal fibronectin after recent sexual intercourse

James S. McLaren, Natasha L. Hezelgrave, Homira Ayubi, Paul T. Seed, Andrew H. Shennan

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):89.e1-89.e5

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

分娩誘発、医学的適応、経陰分娩、予測因子、分娩曲線33

妊娠24～36週6日において医学的適応のために分娩誘発を試みた大部分の女性は経陰分娩に至ったが経陰分娩の最も強力な予測因子は既往分娩回数であった。早産例において分娩誘発はどの妊娠週数においても分娩曲線、特に活動期の分娩曲線に与える影響は少なかった。

Preterm induction of labor: predictors of vaginal delivery and labor curves

Maisa Feghali, Julia Timofeev, Chun-Chih Huang, Rita Driggers, Menachem Miodovnik, Helain J. Landy, Jason G. Umans

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):91.e1-91.e7

【文献番号】 o04500 (頸管熟化、分娩誘発、自然陣痛、陣痛パターン、陣痛促進)

早産、硫酸マグネシウム、補助呼吸、新生児蘇生34

妊娠29週未満の早産例において硫酸マグネシウムへの被曝は新生児早期における心血管系の合併症のリスクの上昇とは相関しないという結果が得られた。分娩室における挿管や生後1日目の補助呼吸のニーズから判断したリスクは、硫酸マグネシウムへの被曝の有無でほぼ同様であると考えられる。

Antenatal magnesium sulfate exposure and acute cardiorespiratory events in preterm infants

Lilia C. De Jesus, Beena G. Sood, Seetha Shankaran, Douglas Kendrick, Abhik Das, Edward F. Bell, Barbara J. Stoll, Abbot R. Lupton, Michele C. Walsh, Waldemar A. Carlo, Pablo J. Sanchez, Krisa P. Van Meurs, Rebecca Bara, Ellen C. Hale, Nancy S. Newman, M. Bethany Ball, Rosemary D. Higgins, Eunice Kennedy Shriver National Institute of Health and Human Development Neonatal Research Network

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):94.e1-94.e7

【文献番号】 o08120 (未熟児、極小未熟児、超未熟児、低出生体重児、出産前ステロイド療法)

indomethacin、壊死性腸炎、非ステロイド性抗炎症薬、sulindac、陣痛抑制剤35

陣痛抑制剤であるsulindacを使用することによって壊死性腸炎のリスクにネガティブな影響を与えることが明らかとなった。さらに検討してみる必要があるが、陣痛抑制剤としてsulindacを使用する際には注意を要する。

Antenatal exposure to sulindac and risk of necrotizing enterocolitis

Beena D. Kamath-Rayne, Mounira Habli, Zahidee Rodriguez, Malcolm Wu, James Gresh, Emily A. DeFranco

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):96.e1-96.e7

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、新生児痙攣、神経発達障害、脳性麻痺、新生児合併症、新生児アシドーシス)

嚢胞性線維症、合併症、死亡率、妊娠37

嚢胞性線維症を有する妊婦においてはコントロール群と比較し死に至るリスクは上昇し機械的補助呼吸を必要とするものが多く、感染に伴う合併症をみるものも多いが、絶対的なリスクは低く問題の発生は稀である。

Medical and obstetric complications among pregnant women with cystic fibrosis

Emily M. Patel, Geeta K. Swamy, R. Phillips Heine, Jeffrey A. Kuller, Andra H. James, Chad A. Grotegut

Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):98.e1-98.e9

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

妊娠性肝内胆汁うっ積、胆汁酸、妊娠合併症、周産期死亡38

重症妊娠性肝内胆汁うっ積はネガティブな臨床結果と相関を示した。胆汁酸レベルは母体と胎児間において相関が認められた。

Intrahepatic cholestasis of pregnancy: maternal and fetal outcomes associated with elevated bile acid levels
Laura Brouwers, Maria P.H. Koster, Godelieve C.M.L. Page-Christiaens, Hans Kemperman, Janine Boon, Inge M. Evers, Auke Bogte, Martijn A. Oudijk
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):100.e1-100.e7

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

分娩誘発、非医学的適応、正期産、初産婦、臨床結果39

妊娠 39 週において非医学的適応による分娩誘発群においては待期療法群よりも母児における合併症の発現率は低下した。

Nonmedically indicated induction vs expectant treatment in term nulliparous women
Jennifer L. Bailit, William Grobman, Yuan Zhao, Ronald J. Wapner, Uma M. Reddy, Michael W. Varner, Kenneth J. Leveno, Steve N. Caritis, Jay D. Iams, Alan T. Tita, George Saade, Yoram Sorokin, Dwight J. Rouse, Sean C. Blackwell, Jorge E. Tolosa, J. Peter VanDorsten, Eunice Kennedy Shriver National Institute of Child Health and Human Development Maternal-Fetal Medicine Units (MFMU) Network
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):103.e1-103.e7

【文献番号】 o04500 (頸管熟化、分娩誘発、自然陣痛、陣痛パターン、陣痛促進)

双胎妊娠、経膈分娩、帝王切開、リスク因子、高年齢、初産婦40

分娩を試みた双胎妊娠の患者において初産婦と高年齢は独立し分娩中の帝王切開のリスクと相関した。しかし、帝王切開のリスクの最も高いグループの患者においてもほぼ 50%は経膈分娩に成功した。従って、経膈分娩を望み禁忌となる要因がない場合には経膈分娩を試みてもよいものと思われる。

Risk factors for cesarean delivery in twin pregnancies attempting vaginal delivery
Nathan S. Fox, Simi Gupta, Stephanie Melka, Michael Silverstein, Samuel Bender, Daniel H. Saltzman, Chad K. Klauser, Andrei Rebarber
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):106.e1-106.e5

【文献番号】 o07100 (双胎妊娠、双胎児間輸血症候群、胎児発育不均衡)

腔閉鎖術、性器脱、子宮留膿症40

腔閉鎖術は高齢の性器脱の女性においては合併症も少なく有効な処置であると考えられている。しかし、腔閉鎖術に伴って子宮留膿症が発生したという報告もある。腔留膿症は女性の生殖管の先天奇形に伴ってよく認められるものであるが、稀に閉経後の女性にも認められることがある。

Pyocolpos presenting as a large pelvic mass after total colpocleisis
Tara C. McCluskey, Michael P. Stany, Chad A. Hamilton
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):113.e1-113.e2

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

頸管不全、緊急頸管縫縮術、扁平バルーン41

胎囊の膨隆が認められた患者において緊急頸管縫縮術を行う際に胎囊を子宮腔に戻すことは産科医にとって一つの懸念される点である。中央が嵌凹したバルーンを開発し胎囊を子宮腔に戻したところ頸管縫縮術を適切に施行することができた。

Use of a uniconcave balloon in emergency cerclage
Ga-Hyun Son, Kylie Hae-Jin Chang, Ji-Eun Song, Keun-Young Lee
Am J Obstet Gynecol.2015 Jan;212(1):114.e1-114.e4

【文献番号】 o06200 (頸管縫縮術)